

天下茶屋中学校

校長室便り



平成二十七年十月六日号

ノーベル賞

今年も、ノーベル賞発表の時期がきました。ノーベル賞は、ダイナマイトの発明により巨額の富を残したアルフレッド・ノーベル氏の遺言を元に設立された賞です。人類のために顕著な功績を残した人が授与対象となっています。

先日、テレビ番組で、自然科学分野での受賞は誰かという予想をしており、興味をもつてその番組を見ていました。

今朝の新聞各社のトップ記事は、北里大学の 大村智^{さとし} 特別荣誉教授の医学・生理学賞受賞を大きく伝えていきます。大村教授は、微生物が作り出す物質の研究に携わり、約500種類の有用な化学物質を発見しています。昭和50年(1975年)に発見した「エバームクチン」という化学物質は、寄生虫駆除薬「イベルメクチン」として製品化されました。アフリカや中南米を始め、発展途上国で、寄生虫が原因で失明の危険性のあるオンコセルカ症という病気の予防や治療にすばらしい効果をあげました。この研究が受賞に結びつきました。

ところで、新聞では大村教授の次のような言葉が掲載されていました。

「私の仕事は微生物の力を借りているだけ。私自身が偉いことを考えたりしたのではなく、全て微生物のやっっていることを勉強させていただき本日まで来た」

「科学者は人のためにならなきゃだめだ。自分でなく人のためにやるのが大事だ、と絶えず考えてきた」

「日本は微生物をうまく利用してきた歴史

がある。今日の受賞は、先輩たちが築いてくれた学問分野で仕事ができただから」
なんと謙虚な方だろうと感じたと同時に、人として、一流の研究者としての品格を感じました。

謙虚に、黙々と、人の利益を考えて研究してこられたからこそ、ノーベル賞の受賞につながったのでしよう。

ふと、こんな言葉が頭をよぎりました。「みの実るほど頭を垂れる稲穂かな」(注)

自らを振り返り、どのように生きることが大切であるかを、あらためて考えるきっかけを与えてくれた報道でした。

(注) 人格者ほど謙虚であるというたとえ。

10月の行事

- 3日(土) 文化発表会(舞台発表の部)
- 6日(火) 後期学級役員 認証式
- 8日(木) 第2回進路希望調査
- 14日(水) 全市一斉研究会(3限まで)
- 15日(木) 3年生 大阪市統一テスト
- 19日(月) 中間テスト 英・国・社
- 20日(火) 中間テスト 数・理・音(3年生)

※しっかりと授業を受ける。

※計画を立てて家庭学習を。

※分からないところは先生に質問。

※とりわけ3年生にとっては、重要なテストのひとつになります。全力で頑張りましょう。

- 23日(金) 交通安全講習会
- 24日(土) 第2回学校公開
- 30日(金) 2年校外学習



※文化発表会(展示発表の部)は11月7日(土)です。

学校ホームページの閲覧は

大阪市教育委員会 天下茶屋中学校

で検索。

